

か

～ 我が国の食料供給基地を目指して～

かごしまの農業農村



金峰ダムの水と排水対策，栽培実証による
安定した生産体制づくり
【南さつま市 金峰地区】

P1

桜島大噴火(大正時代)から引き継がれている開拓魂による
むらづくり (地域活性化)
【垂水市 大野地区・垂桜地区】

P3

基盤整備 (地下ダム) による経営規模拡大と
水利用効果の高い作物への転換
【大島郡知名町 芦清良地区】

P5

平成30年11月
鹿児島県

- 金峰ダムからの水を利用して，本土で一番早い超早場米「金峰コシヒカリ」を安定生産
- 排水対策による乾田化で裏作・転作を拡大，水田をフル活用
- 超早場米の裏作でキャベツなどの露地野菜の振興と生産組織の育成

取組前

用水不足の一方で排水不良も

- ・地域全体で用水不足が深刻化
- ・周辺台地から地下水が流入する湿田で一部耕作放棄も

施設の老朽化，農家の高齢化

- ・設置から20年以上経過し，水利施設等が老朽化
- ・高齢化，兼業化の進行に伴い，新たな地域営農の仕組みが必要



昭和56年度に完了した湛水防除事業
(写真は尾下排水機場)

取組内容

各種支援事業を活用し，基盤整備から地域活動支援・営農支援まで

地域(地区)の概要

- 位置
鹿児島県南さつま市金峰地域



- 主要作物
水稻，麦，豆類，甘しょ，かぼちゃ，そば，茶，ねぎ，葉たばこ，キャベツ等



これまでの主な支援事業

- ・湛水防除事業 金峰地区【S54～S56】
- ・県営かんがい排水事業 金峰地区【S62～H17】
- ・県営土地改良総合整備事業 御新田地区【H5～H12】
- ・経営体育成基盤整備事業 金峰地区【H17～H29】
- ・多面的機能支払交付金事業【H26～】
- ・県単機械導入支援【H29】



金峰ダム



ほ場整備



用水のパイプライン化



水土里サークル活動
(多面的機能支払交付金)
による耕作放棄地対策

取組内容

水田用水施設の整備

自動給水栓



用水路をパイプライン化、自動給水栓の採用で、用水供給の安定化と営農の効率化を実現

水利施設の更新

転倒ゲート



転倒自動化、巻き上げ動力化で水管理労力を軽減

機械の共同利用

定植機



経費節減で所得率向上

排水改良による乾田化

排水路



暗渠排水

周辺台地から流入する地下水対策として排水路(柵渠)を整備
暗渠排水工により、水田の水はけを改善

LED高品質苗の栽培実証

LED技術で栽培中の苗



キャベツの手作りポスター

地元企業のLEDによる栽培技術を導入
LED高品質苗の栽培実証に取組中

取組後の効果

水田のフル活用

本土一早いコシヒカリ

- ・ 本土で一番早い超早場米「金峰コシヒカリ」の産地を確立
- ・ 生産基盤整備などにより安定した生産・供給

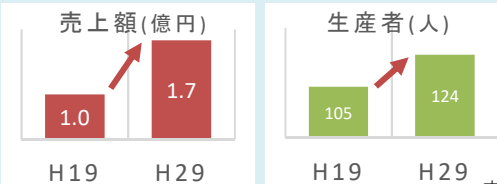


乾田化で転作・裏作

そば 大豆 麦 甘しょ キャベツ かぼちゃ ねぎ 葉たばこ など

6次産業化・地産地消

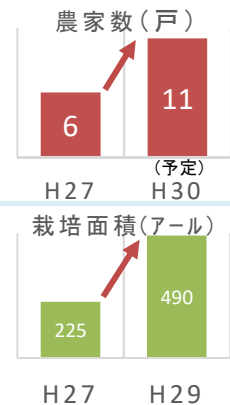
- ・ そば・大豆などを転作し地元の「道の駅 きんぽう木花館」で加工・販売し売上アップ
- ・ 農産物生産者(納入者)も、約2割増加



人・農地プランを基にした営農体制づくり

裏作にキャベツを導入
～「宮崎農事生産組合」の例～

- ・ H27組織設立、講習会や検討会を行い、栽培技術を向上
- ・ 農家数・栽培面積ともに大幅アップ
- ・ 苗の定植機を導入し共同利用
- ・ LED高品質苗から生産されたキャベツは、今年度から「きんぽう木花館」でも販売を開始



出典:「農業かごしま2018.11-12月号」

桜島大噴火(大正時代)から引き継がれている開拓魂によるむらづくり【垂水市大野地区・垂桜地区】

たるざくら

- 地域住民の「話し合い」, 「助け合い」, 「連帯感」の精神を生かしたむらづくり活動による地域の活性化
- 地域の伝統食「つらさげ芋」のブランド化(6次産業化)等により, 地域全体の所得の向上
- 地域住民総活躍によるNPO法人, 大学生等の多様な主体と連携したI・Uターン者の受入促進

【H28 農林水産祭むらづくり部門内閣総理大臣賞受賞】

取組前

背景

- 桜島の大正噴火後, 桜島・垂水地区の被災者が大野地区を開拓し集落を結成
- 昭和時代, 苦難の多い開拓事業を通し, 地域みんなで話し合い, 協力し合う連帯感が形成
- 平成になり, 高齢化の急激な進行, 小・中学校の廃校等, 集落機能が脆弱化

現状

- 活火山桜島から10km圏内であり, 降灰による農作物への被害を克服しながら, 産地を育成
- 地理的条件や温暖な気候を生かしたインゲン, キヌサヤ等の豆類, 柑橘類, 茶, サツマイモ等の栽培や食育に取り組む



豆類の栽培



茶の栽培(食育活動)

課題

- 担い手育成に向け生産基盤の整備が必要
- 集落内外の多様な主体との連携が必要

取組内容

主な生産基盤・環境基盤の整備

- ・ 農村総合整備事業 (H7~H10)
- ・ 中山間地域総合整備事業 (H25~)
- ・ 鳥獣被害対策実践事業 (H26) など

資源・環境保全活動への取組

- ・ 中山間直接支払交付金 (H17~)
- ・ 多面的機能支払交付金 (H27~)

集落の行動計画の策定

多様な主体と連携した地域活性化

- ・ 大野ESD自然学校(環境教育活動, H18~)
- ・ NPO法人森人くらぶ(自然体験活動, H25~)

女性の能力発揮による6次産業化

- ・ 地元で愛されていた地域資源の活用
地域の伝統食「つらさげ芋」の販売による所得向上, 都市住民との交流促進

つらさげ芋って、糖度36度



※ つらさげ芋とは, さつまいもを寒風にさらし糖度を高めた伝統食。つらさげとは, 「つりさげる」の地元での呼び名

取組後

地域経済の活性化(農村所得の向上)

つらさげ芋の高ブランド化

- さつまいも面積拡大
1.0 ha (H22) ⇒ 6.2 ha (H28)
- 販売単価(通常の3倍)
500円/kg (H28)



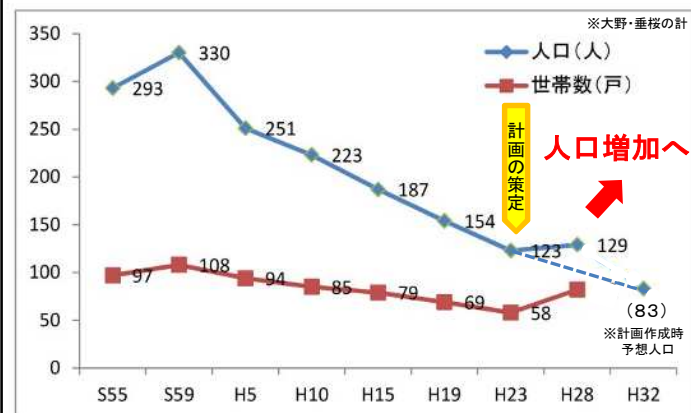
さつまいもの面積拡大

交流・定住人口の増加

- 交流人口の増加
⇒ 5,200人/年間
(地区人口の40倍)
- U・Iターン者の増加
⇒ H22以降10名
(地区人口の8%)



大野原(うのばい)いきいき祭り





大野のはじまりは「桜島の火噴火」

◆ 若い力の取り込み

30年ぶりに復活した青年部による新しい考えや、若手女性のアイデアを取り入れ、農産物のブランド化、農地のフル活用などを検討

◆ こうありたい！

「だれが」、「いつ」、「何を」、「どのようにすべきか」を見える化



大野で生きる
大野に生きる

大野づくり計画
平成27年3月
大野地区公民館
完成し版

きっかけ

過疎化・高齢化等の危機感、小・中学校の廃校、地域の魅力をもっと発信

Step1 (H7~27)

基盤整備の実施

- ほ場整備、農道、集落道路、営農飲雑用水施設の整備に加え、鳥獣害進入防止柵を整備
- 加工施設、芋貯蔵等施設、なども整備

Step2 (H17~)

中山間直接支払開始

- 話し合いにより、集落協定締結
- 共同による農用地の維持管理、担い手育成・多面的機能の確保、資源保全・環境保全の話し合い開始

Step3 (H23, H27)

集落の話し合い (大野づくり計画の策定)

2年7ヶ月、23回の話し合いを重ね、みんなで考えた大野地区の未来「大野づくり計画」を策定。(H27改定)

【都市農村(イベント)交流】

きれいな大野に、いろんなたくさんの人を呼びたい



大野原いきいき祭り (1,500人/年の来場者)



多面的機能支払交付金
(本県の愛称:水土里サークル活動)への取り組み開始

【伝統文化の継承】

大野に人を増やしたい



伝統芸能の棒踊り(大学生等の若者が参加)

【ブランド化】



つらさげ芋に続く新たな特産品開発
(干し芋、おいもチップス、プリンなど)

Step4 (H23~)

6次産業化

加工グループ「高峠わかば会(H20~)」が、伝統食「つらさげ芋」の加工品開発・製造・販売などブランド化に取り組み、地域が活性化

Step5 (H25~)

多様な主体との連携

- 「NPO法人森人くらぶ(H25~)」は、地域住民が気づかない資源を引き出すなど、外部の若い力(I・Uターン者、学生)を取り込み、ソーシャルビジネス活動を展開
- 若手女性による「大野原加工ネットワーク(H27~)」は、「高峠わかば会」と連携し、ニジマスを使った燻製づくりなどの商品開発を展開

将来に向けて

- ☑ 地区外から注目される元気な山村集落であり続ける。「ここで暮らしたい」と実感できるむらづくり
- ☑ NPO等と連携し、地域特性を活かした農業振興(つらさげ芋の増産、うのばいブランドの確立、新たな加工品開発による所得確保)
- ☑ 地域の魅力を発信し、大野の人口(住む人も来る人も)を増やしたい

今後の展望

Step7 (H27~)

水土里サークル活動開始

- 地域住民一体となって(高齢者は出来る作業で参加)活動
- 地域外からの大学生(鹿児島大学や宇都宮大学)も参加・連携

Step6

都市農村交流

- 地域イベントの開催により地域の所得を向上
 - ・大野いきいき祭り(H22~)
 - ・大野散策フットパス
 - ・軒先カフェ
 - ・廃校跡地利用ニジマス釣り堀
- JICA海外青年研修受入

取組の概要

- 区画整理と畑地かんがい施設整備等により農作業の効率化と農業所得をUP！～高収益作物の導入推進～
- 安定した国営地下ダムの水確保（補給水）により農業経営の安定向上
- 農地中間管理事業との連携（導入支援）により地域の担い手農家の経営規模拡大

取組前

未整備地域の不安定な農業経営

- 不整形な圃場と未整備な農道のため大型機械の導入が困難
- 農地流動化の停滞により担い手農家の土地確保が難しく小規模農家が多い状況
- 海岸線に隣接しており風塩害などによる地形的悪条件下で収益性が伸び悩む



取組内容

区画整理や安定した国営地下ダムの水確保により経営規模の拡大と高収益作物の生産拡大

地域（地区）の概要

- 位置
鹿児島県大島郡知名町



- 主要作物（さとうきび、さといも、花卉）



主な支援事業

- 【国営事業】
 - ・国営かんがい排水事業 沖永良部地区（H19～H33）
- 【県営事業】
 - ・畑地帯総合整備（担い手育成型）第三知名東部地区（H13～20）
 - ・畑地帯総合整備（担い手支援型）芦清良地区（H19～24）
 - ・農地整備事業（通作・畑網）芦清良地区（H25～29）



【地下ダム施工状況】



【余多揚水機場】



【集水井戸内部】

- ・地下ダム工事中ながら、平成27年1月から部分的に通水
- ・芦清良地区にも供給開始

農地中間管理事業、多面的機能支払交付金

取組後の効果

取組前

給水スタンドでの給水作業



散水車による散水作業



○給水スタンドで水を確保し、散水しても十分なかん水が難しいいうえに散水ムラもある。
また、多大な労力を費やしている。

取組後

埋設式レインガンによる散水状況



高品質な農産物の生産の推進



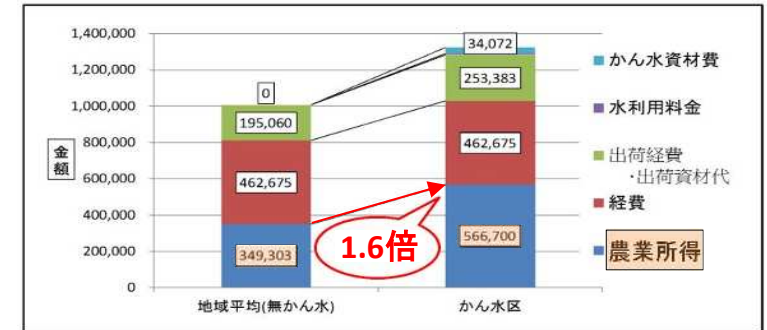
○効率よい散水が行えると共に、増収及び高品質な農産物の生産が可能となった。また、水利用効果の高い作物への転換も可能となった。

農業所得

スナップエンドウ水利用効果実証成果・収支試算 (平成28年度実証分)

1 スナップエンドウの10aあたり所得試算

(JAあまみ・農家からの聞き取りを地域収益性目標を参考に算出)



**10aあたり比較：水利用無 1,500kg < 水利用あり 1,956kg
※約3割の増収！！**

2 マルチとかん水チューブ設置作業の一体化体系技術の確立



← 一体化技術の効果

- ① 畑かん水利用による農業所得向上
- ② 生産の高位平準化
- ③ 設置作業の省力化

3 実証期間のかん水及び降雨状況

